

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320050

研究課題名(和文) 上海租界劇場文化の歴史と表象 - ライシャム・シアターをめぐる多言語横断的研究

研究課題名(英文) History and Symbols of the Shanghai Foreign Settlements Theater Culture - A Multilingual Cross-Sectional Study of the Lyceum Theatre

研究代表者

大橋 毅彦 (OHASHI, Takehiko)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：60223921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円、(間接経費) 3,210,000円

研究成果の概要(和文)：1930年代から40年代前半にかけての租界都市上海でさまざまなジャンルの舞台芸術が会場となったライシャム・シアターの実像を包括的に捉えていくためには、一国主義的な観点を越えた各国語の資料の活用が有効であることを、共同論文の執筆や国際シンポジウムの開催を通じて発信することができた。また、そのようにして明視化された劇場芸術のありようが、戦時下上海の文化的閉塞感を打開するモメントとなり得ていくといった発想の手がかりをつかむこともできた。

研究成果の概要(英文)：Through the authorship of joint papers and holding of international symposiums, we state that a comprehensive understanding of the Lyceum Theatre can be effectively obtained by the use of materials in various languages that present a non-unilateral viewpoint. Lyceum Theatre was a meeting place for various genres of performing arts in the Shanghai Foreign Settlements from the 1930s to the early 1940s. Furthermore, by clarifying the state of performing arts, it is possible to comprehend the in-the-moment thinking that was used to overcome the sense of cultural confinement in wartime Shanghai.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学 ライシャム・シアター 蘭心大戲院 上海租界 劇場文化

1. 研究開始当初の背景

19世紀後半の上海でイギリス人のアマチュア演劇愛好家たちの活動拠点として開設され、以降さまざまな舞台芸術がそこで繰り広げられてきたライシャム・シアター（蘭心大戲院）は、上海租界における劇場文化史全般を見渡した際の一項目としてのみ取り上げられるか、話劇や音楽活動などをはじめとする個別の研究領域の内側に回収されて論じられるといった扱いしか受けてこなかった。ライシャム・シアターが開示してきた舞台芸術の種々相とそれらが持ち得た芸術史、文化史的意義とを、この劇場の動向に目を向けた各国語の資料を用いて包括的に考察し、それによって上海租界文化の捉え方に対して、新たな照明をあてる必要がある。

2. 研究の目的

上海租界に多数存在した劇場空間の中で、ライシャム・シアターに的を絞るのは、以下の事項を達成することを目的としているからである。

(1) クラシックからモダンにいたるさまざまな舞台芸術の結節点となっていく点において、ライシャム・シアターが上海租界の劇場群の中にあって際立つ存在であることを明らかにしていく。

(2) (1) に記したライシャム・シアターの特質を浮き彫りにするためには、各国語の資料を丹念に収集、分析する必要が生じてくるが、そのことを通じて一國主義的な観点では掬い取れないライシャム・シアターの実態を提示していく。

(3) ライシャム・シアターをめぐる種々の言説活動の分析を通じて得られるものはそればかりではない。演劇（話劇）・音楽・舞踊などの上演（公演）活動において、ジャンル間の相互浸透、領域横断的な動きがあったことも可視化されてくるはずである。そうした芸術学的な発見も目指す。

(4) さらに、各国語の資料（新聞メディア）の間には、ライシャム・シアターの扱いに関してさまざまな温度差が生じている。その点に注目することによって、劇場文化に関わる情報の発信と受容という側面にあっても独特の力学が働いている租界の歴史的な位相についての見通しを立てる。

3. 研究の方法

(1) 1860年代後半に共同租界の一郭に開設されたライシャム・シアターは、その後の拡張や再建を経て、1931年にフランス租界に移動してくる。その間の経緯についてもむろん関心は向けるが、本研究で重きを置く時期は、この1931年から45年までの時期とする。研究期間が3年間なので、ある程度、対象とする時期を絞らなければならないという外的条件もさることながら、それ以上に強調しておきたい理由としては、この時期のライシャム・シアターで上演（公演）さ

れた舞台芸術のジャンルが一気に多様化してくること、そしてその実態を把握することによって、いわゆる淪陷期という歴史的な用語の下で十分に顧みられてこなかった、行政上では租界が消滅した後の上海の文化状況を見直せるかもしれないという予測を立てたことが挙げられる。

(2) 本共同研究の発足以前より研究代表者の大橋は、1930年代から40年代前半にかけてのライシャム・シアターに関心を寄せていたが、その際のデータベース的な役割を果たしたものは、同時代の新聞であれ、劇場関係者が後に記した回想であれ、そのほとんどが日本語資料に負うものであった。しかしながら、租界都市上海における劇場文化を考察するにあたって、それだけでは多くのものを見逃すことになる。そうした問題の克服を目指して、大橋は1941年5月という一ヶ月間に絞り込んで、その間の邦字新聞・英字新聞・仏語新聞に掲載されたライシャム情報を取り上げ、それらを通じてライシャム・シアターを複眼的に捉えていく端緒を掴んだ。以上の経緯をふまえて、本研究においては「多言語横断」的な研究姿勢をより鮮明に打ち出すこととする。すなわち、同時代の各国語の新聞を史資料の最優先候補として、マイクロフィルムや復刻で入手しやすいものから、従来の上海租界文化史研究分野にあっても看過されてきたものにはいたるまで幅広く調査活動を展開して、ライシャム・シアターに関する情報の蓄積を図っていく。

(3) 本研究チームの構成員の専門分野は、日・中・西にまたがる文学、音楽、歴史学というように多岐にわたっているが、研究の進行に伴って集まってくる情報の分析や、次なる調査対象の選定などの点においては、そうした各自の専門的特性を活かしていく体制をとる。また、共同研究活動全体として見た時、「多領域横断」的な傾向も浮き上がって見えてくるような仕掛けとして、たとえば一つの専門領域には特化しないかたちでのワークショップもしくはシンポジウムを準備していく。

4. 研究成果

(1) 第一の成果として、仏語新聞「ル・ジュルナル・ド・シャンハイ」の資料的価値を発見するとともに、そこに掲載されたライシャム・シアター関連記事のデータ化をかなりの程度で実現できたことが挙げられる。1927年から45年まで発行された同紙は、現在、国内外の図書館に分散して所蔵されているが、本研究チームは初年度よりパリのフランス国立図書館BnFに赴いて交渉を重ね、翌年度にかけて保存状態の良好な同紙の電子版での購入を実現、それと並行して上海図書館徐家匯藏書楼、京都大学図書館での調査も行い、「ル・ジュルナル・ド・シャンハイ」が文化欄を中心として同時代の上海新聞メディアの中にあっては抜きん出たかたちで、

ライシャムを含めた豊富な劇場芸術に関する情報を発信していることを確かめることができた(なお、本研究チームに電子版資料を提供してくれたB n Fは、その後、この電子化をもとに図書館電子データベースGallicaのサービスとして当該紙を公開するに至った)。以上の過程を経て研究期間終了時点の段階においては、1941年1月から1945年までのライシャム・シアターで上演(公演)された各種の舞台芸術を、その演目、出演者、上演年月日、開演時刻に至るまでを約500に上る項目を記載した「蘭心大戲院上演演目表」を完成させた。上海音楽学院出版社から刊行の準備が進んでいる『上海租界与蘭心大戲院』に、メンバー全員の論文と合せて掲載される予定である。

(2)このように「ル・ジュルナル・ド・シャンハイ」の調査に比重をかけながらも、それと並行して同時期の中国語新聞「申報」と「新聞報」、英字新聞「ノース・チャイナ・デイリー・ニュース」と「ノース・チャイナ・ヘラルド」、露語新聞「スロポ」と「ザリヤ」、邦字新聞「大陸新報」、独語新聞「シャンハイ・ジューイッシュ・クロニクル」に掲載されたライシャム・シアター関連記事の収集も、上海図書館徐家匯藏書楼を中心として可能な限り行った。そして、「ル・ジュルナル・ド・シャンハイ」も含めた、それらの記事の相互参照を通じて、上海租界が終結に向かう時代的推移の中であって、ライシャム・シアターがどれだけ特異な位置を占めていた劇場であったかについての多くの情報を得るとともに、個々のメンバーの専門性ともリンクした問題関心を膨らますことができた。これが第二の成果である。

(3)研究期間二年目の後半に、ライシャム・シアターを考察していく上での「ル・ジュルナル・ド・シャンハイ」の資料的価値に注目した共同論文を上海音楽学院の学術雑誌「音楽芸術」に発表した。これが一つのきっかけとなって同学院との連携が軌道に乗り始め、研究期間の最終年度には、当初の予定を上回る規模での国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」を開催して、それまでの本研究が積み上げてきたものを国内外に向けて発信したが、そのことによって今後の研究活動がさらに発展していく展望が開けてきた。すなわち、上記シンポジウムで本共同研究のメンバーが行った報告に、上海音楽学院の芸術系および歴史系研究者の論考も加わるかたちで『上海租界与蘭心大戲院』と題する学術書が刊行される動きが現在中国では始まっており、また、それと合せて日本国内でも、シンポジウム以後の各自の研究成果も取り込みながら、本共同研究メンバー責任編集の下、「アジア遊学」(勉誠出版)から「上海租界劇場文化が放つ光芒」と題する特集号を2015年4月に刊行することを目指しての動きにも入っているのである。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1. 榎本泰子 流行歌が映し出す時代の影 (貴志俊彦『東アジア流行歌アワー』岩波書店、2013年) 東方、査読無し、第397号、2014、pp24-28
2. 大橋毅彦 「大陸新報」の内包と外延、日本近代文学、査読有、第89集、2013、pp.171-178
3. 大橋毅彦 明朗上海に刺さった小さな棘 池田みち子の 上海ものをめぐって、アジア遊学、査読無し、167号、2013、pp126-137
4. 井口淳子、榎本泰子、大橋毅彦、関根真保、趙怡、藤田拓之 20世紀40年代上海租界蘭心大戲院的芸術活動 以 Le Journal de Shanghai (法文上海日報) 為主要史料、音楽芸術(上海音楽学院学報) 査読有、2013年第1期、2013、pp134-141
5. 関根真保 日本警察の報告書(1943-1944)に見る上海ユダヤ人 石上玄一郎が訪れた楊樹浦、ナマール(港) 査読有、第16号、2011、pp31-43

[学会発表](計11件)

1. 大橋毅彦 ライシャム劇場は何を生み出しどう語られたのか? 多文化多言語都市・上海を考える、関西大学東西学術研究所日本文学研究班研究例会、2014年2月21日、関西大学
2. 大橋毅彦 Melting Pot ライシャム幻想、国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」、2013年9月7日、大阪音楽大学
3. 藤田拓之 上海の外国人社会とライシャム劇場 素人劇団の舞台から西欧文化のシンボルへ、国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」、2013年9月7日、大阪音楽大学
4. 関根真保 上海ユダヤ避難民の文化活動とライシャム、その周辺、国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」、2013年9月7日、大阪音楽大学
5. 榎本泰子 太平洋戦争期の日本人とライシャム劇場 上海音楽協会をめぐって、国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」、2013年9月7日、大阪音楽大学
6. 井口淳子 ライシャム劇場、1940年代の前衛性 20世紀音楽と上海バレエ・リュス、国際シンポジウム「上海租界とライシャム劇場 多民族が交差する劇場空間」、2013年9月7日、大阪音楽大学

- 7 . 榎本泰子 TITLE OF PANEL:New
Musical Perspective on Colonial
Modernity of Shanghai, 1880s-1940s:Western
Genres in Local Condition “ The
Shanghai Musical Orchestra and
Cultural Perspectives on the Shanghai
Settlement, ICTM42th World Conference, 2
013年7月16日、Shanghai Conservatory
of Music, China
- 8 . 井口淳子 TITLE OF PANEL:New
Musical Perspective on Colonial
Modernity of Shanghai, 1880s-1940s:
Western Genres in Local Condition
“ Twentieth Century Music Performed
Russian and Jewish Refugees in Wartime
Shanghai, ICTM42th World Conference,
2013年7月16日、Shanghai Conservatory
of Music, China
- 9 . 井口淳子 上海租界と20世紀音楽 亡
命ロシア人とユダヤ難民による音楽活
動、日本音楽学会第63回大会、2012年
11月24日、西本願寺聞法会館(京都)
- 10 . 藤田拓之 租界期上海の劇場文化
1930年代のライシャムシアターを中心
に、三田史学会、2012年6月23日、
慶應義塾大学
- 11 . 大橋毅彦 上海租界劇場文化の歴史と
表象 ライシャム・シアターの1930~
1940年代、名古屋大学大学院文学研究科
附属日本近現代文化研究センター主催
「文化の越境、メディアの越境 翻訳と
トランスメディア」、2011年11月5日、
名古屋大学

〔図書〕(計1件)

- 1 . 大橋毅彦、関根真保、他6名 共編著『新
聞で見る戦時上海の文化総覧 「大陸新報」
文芸文化関連記事細目』上巻・下巻・別巻(索
引編) ゆまに書房、2012、3冊合計で1253
ページ、分担箇所抽出不可。

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

大橋 毅彦 (OHASHI, Takehiko)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号: 60223921

(2) 研究分担者

榎本 泰子 (ENOMOTO, Yasuko)
中央大学・文学部・教授
研究者番号: 00282509

井口 淳子 (IGUCHI, Junko)
大阪音楽大学・音楽学部・教授
研究者番号: 50298783

藤田 拓之 (FUJITA, Hiroyuki)
同志社大学・人文科学研究so・嘱託研究員
研究者番号: 80572297

関根 真保 (SEKINE, Maho)
立命館大学・言語教育センター・外国語囑
託講師
研究者番号: 20708698

研究協力者

趙 怡 (CHO I)
東京工業大学・外国語研究教育センタ
ー・非常勤講師